

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

273-781

事務事業名	コンピュータシステム運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	図書館			1	10	5	5	10	3	7,751
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり				包含する細々目	1	10	5	5	10	1	49,204
施策	28 学習交流活動の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	飯田市情報化アクションプラン						
		事業期間	16	年度～	21	年度	関連計画条例等					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	市民	更新されたコンピュータ端末台数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			30			
		図書館で市民が触れることのできる端末台数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			13			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	高機能で安定したシステムの運用を図る。併せて貴重資料を資源化し、活用を促進させる。	Web予約率	18目標	0.12	最終目標	0.15
			18実績	0.12	19目標	0.13
			23目標		23実績	
		インターネット上へデータ公開された図書館資料の率	18目標	0.8	最終目標	
		18実績		19目標		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	平成16年7月に更新したコンピュータシステムは、利用者用インターネット専用端末の設置や、Web上へのデータ公開などインターネット系のサービスの機能が加えられ順調にスタートした。市民も新設機能に徐々に慣れ、さらなる機能アップを望む声も出ている。今後新システムの円滑な運用を図るとともに、特殊資料目録を積極的に公開し利活用を図る。	18年度の実績 ・新刊図書データの投入・Web予約の受付及び処理、メールでの予約本連絡等日常のWEB業務を迅速的確に行い、利用拡大を図る。 ・仕事や暮らしに役立つ図書館として、調べ物のお手伝いをすべくホームページのリニューアルを行った。 ・村沢文庫・飯田文書・市岡のデータ化し、ホームページに目録公開。	・コンピュータシステム使用料 ・村沢文庫データ化 ・飯田文書データ化 ・市岡文書データ化 ・WEB予約処理件数 ・新刊データの投入週1回	7397 354 1043点 1121 1182 2856
	19年度計画 ・新刊図書データの投入・Web予約の受付及び処理、メールでの予約本連絡等日常のWEB業務を迅速的確に行い、利用拡大を図る。 ・ホームページへの図書館概要掲載の検討をおこなう。 ・伊藤大八資料をデータ化し、ホームページに目録公開。 ・竹村浪の人講談資料の公開	・コンピュータシステム使用料 ・伊藤大八資料等データ化 ・WEB予約処理件数 ・新刊データの投入週1回	7397 354	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	7,751	7,751
	事業費計(A)	7,751	7,751
人件費	正規職員所要時間	18年度 552	19年度 552
	臨時職員等所要時間	432	432
	人件費計(B)	2,438	2,438
	トータルコストA+B	10,189	10,189

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	図書館書誌情報が利用者にとって身近となり、図書館へ足を運ぶ人が増えることにより、学びの機会が得られる	学習活動を行っている市民の割合	現状値	38	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	40
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
耐用年数が過ぎ、障害が出始めていた平成9年導入の前システムは、機能の安定と強化をはかるため、平成16年7月にコンピュータシステムの全面更新が実施された。 既存データの移行、データのインターネット上への公開も順調に実施され、業務も軌道に乗ってきている。	前システムでは、データの公開ができなかったが、新システムでインターネット上へデータ公開したところ、現在一日約80件のアクセスがある状況である。 それに合わせ、インターネット予約、館内検索機からの予約も始まり、確実にサービス拡大が図られた。現在当館にのみ所蔵する特殊コレクションのデータ公開、また家庭用パソコンに加え携帯電話からのアクセスを望む声もあり、情報提供への幅広い対応を求められている状況にある。	多様なインターネットでの蔵書検索機能、予約機能など大変好評であるが、それに合わせ、より高度な情報の提供、より便利なアクセスツールを要求する意見も出始めている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価)	結びつく	(その理由)	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価)	余地がある	(その理由)
		対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価)	必要性がない		(その理由)	有効性評価	(評価)
意図の見直しの必要性はありますか？	(評価)	必要性がない	(その理由)	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価)	統合可能	(類似事業名、理由)	
市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価)	必要ある	(その理由)		効率性評価	(評価)	不可能	(その理由)
		(評価)	妥当である	(受益者とその理由)	公平性評価			

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<p>実施年度 具体化</p> <p>今後も資源を資産に変える観点で単に資料をデジタルデータ化するというだけではなく、データを市民にどのように活用してもらえるかを視野に入れ事業を実施していく。今年度は歴史研究所及び美術博物館とのデータの共有化の検討を開始する。</p>
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	作成したデータは基本的にデジタルデータと活字体データに作成し、パソコンを使用しない市民へも活用してもらえるよう普及活動を展開する。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	